

1. 内政

▼政府及び議会の動き

- ・8日、政府は、臨時閣議を開催し、12日までの議会春夏会期中に採択が必要とされる融資案件等に関し閣議決定。
- ・10日、議会は、共産党議員発案によるマリスツァ国防相及びサンドゥ教育相に対する辞職勧告決議案を否決。
- ・11日、グリーン検事総長及びエフリン司法相は、検事総局の活動に関する法律改正案作成のための作業部会創設に関する共同命令に署名。
- ・12日、議会は、対モルドバ円借款「医療サービス改善計画」（供与限度額59億2,600万円）及び環境・気候変動対策無償資金協力「バイオマス燃料有効活用計画」（供与限度額11億5,400万円）に関する日本との国際約束、道路修復のための欧州復興開発銀行（EBRD）及び欧州投資銀行（EIB）による融資（総額3億ユーロ）に関する取り決め等を批准。同日、議会は、約50の法案を採択し、春夏会期が閉会。秋冬会期は8月19日開会予定。
- ・12日、2012年12月に共産党会派から離脱したサルブ議員（無所属）は、民主党会派への加入を表明。

▼その他

- ・10日、フィラト自由民主党党首は、12月の党大会において党首を辞任する可能性がある旨言及。

2. 経済

▼マクロ経済

- ・11日、国家統計局は、6月期の消費者物価（PPP）が対前月比で0.5%減、年初比では2.3%増と発表。

▼IMF

- ・12日、スネルIMF理事は、同日のコルマン議会議長との会談において、モルドバとの新たな協力枠組み協議のため、今秋、IMFミッションがモルドバを訪問する予定と発言。

3. 外交

▼ライチャーク・スロバキア副首相兼外務・欧州問題相の来訪

- ・8日、レアンカ首相は、来訪したライチャーク・スロバキア副首相兼外務・欧州問題相と会談し、内閣発足後100日間の優先課題等のモルドバ国内問題に関し協議。ライチャーク大臣は、モルドバはスロバキアの優先的支援国である旨述べ、モルドバの国内改革に対する支援の継続を表明。
- ・8日、ゲルマン副首相兼外務・欧州統合相は、ライチャーク副首相兼外務・欧州問題相と会談し、欧州統合に向けたモルドバの優先課題及び両国関係に関し協議。ライチャーク大臣は、EU加盟後スロバキア国民の生活は格段に向上したとして、自国の経験をモルドバと共有する用意がある旨発言。会談後、両大臣は、在モルドバ・スロバキア大使館の開設式及

びモルドバ・スロバキア経済フォーラムに出席。

- ・8日、コルマン議会議長は、ライチャーク副首相兼外務・欧州問題相と会談し、欧州統合路線、二国間協力の活性化及び多様化、モルドバの国内改革及び内政状況等に関し協議。

▼アシュトンEU上級代表の来訪

- ・9日、ティモフティ大統領は、来訪したアシュトン外務・安全保障政策上級代表と会談し、モルドバの欧州統合路線へのEUの支援に対し謝意を表明。双方は、汚職対策及び経済成長等のモルドバ政府の課題、沿ドニエストル問題及びモルドバの内政状況等に関し協議。
- ・9日、レアンカ首相は、アシュトン上級代表と会談し、自由貿易圏を含む連合協定の今秋の仮署名及び2014年の署名に向けた準備に関し協議。同上級代表は、自由貿易及び査証免除交渉の成果を評価し、ビリニユスでのサミットはモルドバ・EU関係強化の契機となるであろう旨発言。

▼レアンカ首相のルーマニア訪問（9日）

- ・9日、レアンカ首相は、ルーマニアを訪問し、ポンタ首相と会談。両首相は、モルドバの欧州統合路線、両国政府合同会合の開催、エネルギー及びインフラ計画等の両国関係に関し協議。会談後、レアンカ首相は、モルドバ独立記念日の8月27日にウングニ・ヤン間ガスパイプライン着工式典が開催される旨発言。一方、11日、ラザル経済相は、訪問先のルーマニアにおいて同パイプライン稼働のためには更にウングニ・キシナウ間パイプライン建設が必要である旨発言。

▼サーカシヴィリ・グルジア大統領及びサルグシャン・アルメニア大統領の来訪

- ・11日、キシナウにおいて第3回東方パートナーシップ諸国欧州人民党首脳会合が開催され、マルテンス欧州人民党議長、レアンカ首相、フィラト自由民主党党首、サーカシヴィリ・グルジア大統領及びサルグシャン・アルメニア大統領が出席。出席者は、欧州統合に向けた課題の履行状況に関し協議し、同会合は各国がEUに接近する新たな可能性をもたらすメカニズムである旨指摘。
- ・11日、ティモフティ大統領は、サルグシャン大統領と会談し、対EU関係問題に関する経験の共有を目的とした両国政治対話の重要性を強調。会談後、両大統領は、文化及び農業分野における両国協力に関する合意文書の署名式に臨席。同日、レアンカ首相は、サルグシャン大統領と会談し、両国貿易関係の活性化のための貿易・経済政府間委員会を創設することで合意。
- ・12日、ティモフティ大統領は、サーカシヴィリ大統領と会談し、欧州統合に向けた両国の協力、両国内の凍結された紛争の問題等に関し意見交換。サーカシヴィリ大統領は、今後2、

3年はロシアがグルジア及びモルドバの国内情勢に介入し問題を引き起こすことはないであろうとして、両国が協力して欧州路線を進むことが重要である旨発言。

・12日、レアンカ首相は、サーカシヴィリ大統領と会談し、司法、警察及び教育分野における両国の改革に関し意見交換。また、同日、コルマン議会議長は、サーカシヴィリ大統領と会談し、両国の欧州統合路線及び両国協力関係の展望等に関し協議。

4. 沿ドニエストル

▼モルドバによる出入国管理施設設置をめぐる動き

・9日、カラシン露外務次官は、モルドバによる沿ドニエストルの境界への外国人の出入国管理施設設置は一方的措置であり、沿ドニエストル交渉に否定的な影響を及ぼすであろう旨発言。これに対し、レアンカ首相は、同措置はドニエストル両岸の住民の移動を困難にすることが目的ではなく、EUとの査証免除に向けた行動計画の履行のためである旨改めて強調。

・12日、モルドバ議会は、沿ドニエストルとの境界の出入国管理施設設置に関する法案の審議を次会期に持ち越す旨決定。

▼次回「5+2」者交渉に向けた動き

・10日、カルポフ国家再統合問題担当副首相は、キシナウにおいて「5+2」者交渉仲介者のデシツァOSCE議長国特別代表、グバレフ沿ドニエストル問題担当ロシア大使及びピロシュコフ駐モルドバ・ウクライナ大使と会談し、次回「5+2」者交渉の議題に関し協議。仲介者3代表は、紛争解決に向けた当面の課題はドニエストル川両岸の信頼醸成である

として、モルドバによる出入国管理施設設置の動きに懸念を表明し、当事者双方に対し一方的行為を控えるよう呼びかけ。デシツァ代表は、最近2か月の作業は停滞している旨指摘し、作業部会をより頻繁に開催する必要性を強調。グバレフ大使は、沿ドニエストルの地位に関し決定するのは時期尚早である旨述べ、ピロシュコフ大使は、沿ドニエストルの地位に関しては次回「5+2」者交渉において協議されない旨発言。

・11日、ティラスポリのOSCE事務所において次回「5+2」者交渉に向けた準備会合が開催。当事者のカルポフ国家再統合問題担当副首相、シュタンスキ「外相」及び仲介者3代表が出席し、境界における出入国管理及び移動の自由の問題、社会・経済、犯罪対策及び環境保護分野の作業部会の活動等の議題に関し協議。

▼その他

・6日、デシツァOSCE議長国特別代表は、沿ドニエストル地域には9万人のウクライナ国民が居住するとして、ウクライナはティラスポリへの総領事館開設に関心がある旨発言。

・10日、シェフチューク「大統領」は、ウクライナ国籍のトゥランスカヤ「首相代行」を「首相」に指名する旨提案。同日、沿ドニエストル「最高会議」は、同提案を全会一致で承認し、同「大統領」は、新「首相」任命に関する「大統領令」に署名し、同「首相」に対し組閣作業の開始を命令。

5. 防衛

・8日、国防省は、ウクライナのリヴィウで開催されている多国間合同軍事演習「ラピッド・トライデント2013」に約60人が参加している旨発表。

※本週報ではモルドバの首都名「キシニョフ」(ロシア語読み)を暫定的に「キシナウ」(モルドバ語読み)と表記しています。
(了)